

## 16-1-2 最近の水害の特徴

### 1) 都市化による水害ポテンシャルの増大

国土面積の約70%が山地を占めるわが国では、河川の氾濫区域内で都市化が進展し、人口・資産が集中しており、破堤等による水害によって、道路、鉄道などの交通機関のマヒ、電話、電気等のライフラインの遮断が発生し、社会経済活動に甚大な影響を与えることとなります。



写真16-1-1 都市水害の実態

### 2) 水防意識の低下

今日、人と人との関係が希薄になる中で、多くの日本人は、自分は水防などに関係ない、という姿勢が顕著となっており、水防団等の組織率が低下しています。

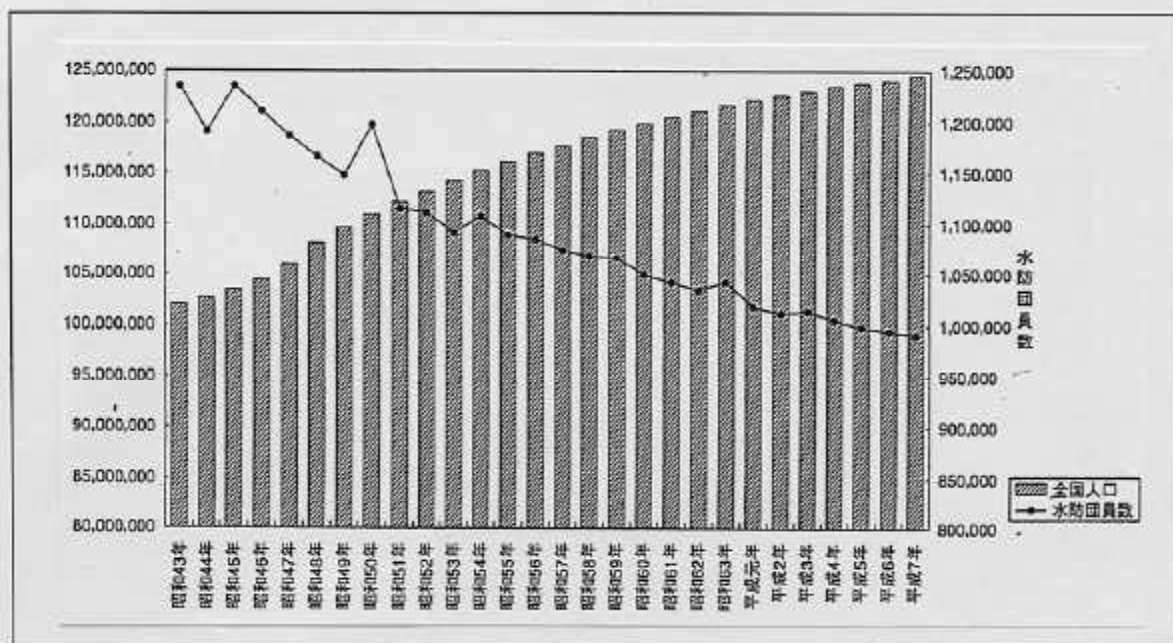


図16-1-4 人口と水防団員の推移 出典：河川 2000-11月号

### 3) 吉野川の主な水害

戦後で主な洪水を抽出すると

年 号	月 日	台 風 名	記 事
昭和 29 年 (1954 年)	9 月 17 日	台風 12 号 (ジューン)	○岩津での洪水流量は 14,900m <sup>3</sup> /s を記録。治水計画の再検討となる。三好、美馬、麻植郡の被害甚大、死傷者 17 人、被害者 2 万 230 人。
昭和 36 年 (1961 年)	9 月 16 日	台風 18 号 (第 2 室戸)	○岩津地点流量 11,960m <sup>3</sup> /s 川島町浸水被害大。
昭和 49 年 (1974 年)	9 月 9 日	台風 18 号	○岩津地点流量 14,470m <sup>3</sup> /s
昭和 50 年 (1975 年)	8 月 23 日	台風 6 号	○岩津地点流量 13,780m <sup>3</sup> /s
昭和 51 年 (1976 年)	9 月 12 日	台風 17 号	○岩津地点流量 11,450m <sup>3</sup> /s 吉野川上流域で大災害
平成 2 年 (1990 年)	9 月	台風 19 号	○岩津地点流量 11,190m <sup>3</sup> /s
平成 5 年 (1993 年)	7 月	台風 7 号	○岩津地点流量 12,080m <sup>3</sup> /s

表 16-1-1 出典：吉野川百年史ほか

12号台風で破堤寸前の吉野川 林町(現在の両波町)北岸  
(昭和29年9月14日)



洪水が浸透してまた大穴  
(昭和二十九年九月)  
水の通しやすい地盤では、睡床ですっぽり入るほどの穴が発生した。水が地盤に浸透して地表にわき上がった跡である。地元では俗に「ガマ」と呼んでいる。



38

写真16-1-2 出典：四国三郎物語より

第二室戸台風(昭和36年9月)による松茂町の被害 松茂町歴史民俗資料館提供



写真16-1-3 出典：四国三郎物語より



川底の内水被害(昭和36年)

写真16-1-4 出典：四国三郎物語より



写真16-1-5 出典：四国三郎物語より

### 3) 氾濫区域への人口資産の集中

河川改修の進捗と都市への人口の集中に伴って、旧来、洪水被害を恐れて人々が生活の場として避けていた氾濫区域内へ人口資産が集中しています。

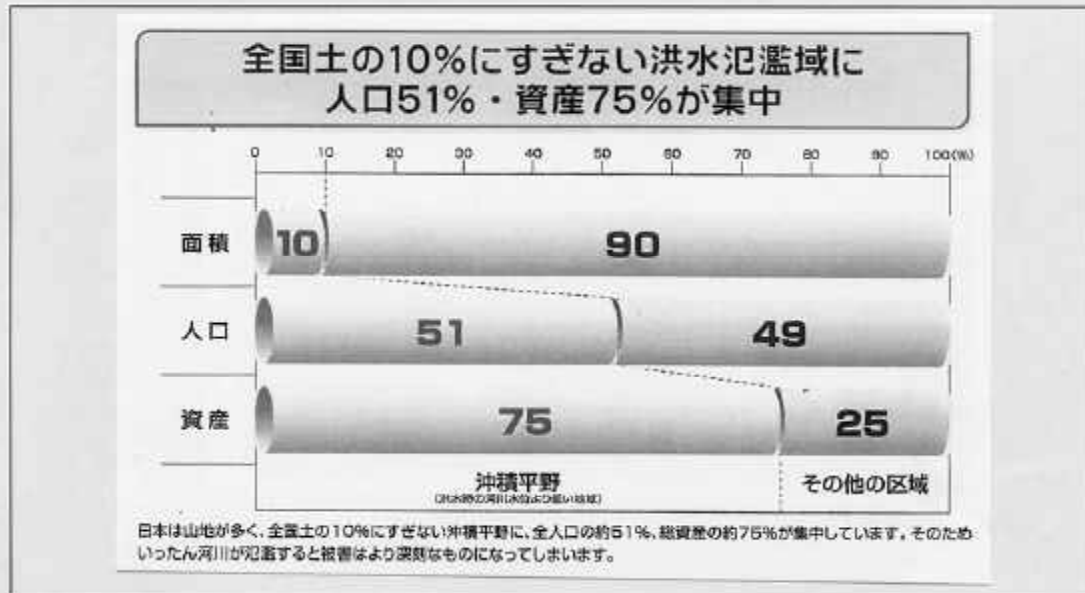


図 16-1-5 出典：四国三郎物語より

吉野川も例外ではありません



図 16-1-6